

獅山市長が公約通り



正式に「設置同意」を撤回！

獅山市長は市長選挙の政治活動用ビラで、場外舟券・車券売場設置に反対する立場を明確にした上で、「中島市長は、周辺自治会の同意を得ないで業者に対し設置の同意を与えましたが、このような住民無視の同意は撤回します。」と「同意の撤回」を約束していました。

獅山氏は、当選後の4月28日、(株)トランスワードに

対し「前市長が出した場外舟券車券売場設置同意書を、市長に就任する5月10日時点で撤回する」と事前通告していました。

そして5月10日、初登庁すると早速、(株)トランスワード宛てに「同意書撤回を確認する」文書を送りました。これで前市長の「設置同意書」は無効になりました。

「同意撤回」は彦根市民多数の声

彦根市長選挙の公約で「設置同意の撤回」を掲げたのは獅山向洋候補だけではありません。

大久保貴候補も選挙公報で、「場外舟券・車券売り場建設の市長同意を白紙に戻す」と述べていました。

このように「同意撤回」を表明した候補者二人の得票率

を合わせると64.25%になります。

彦根市民の多くが「前市長が出した同意を撤回する」という公約を支持したことになります。獅山市長が市民多数の意思である「同意撤回」の公約を実行したのは当然のことで、非難されるいわれはありません。

「市長の同意書」が無ければ



舟券売場設置の申請が出来ない

前市長が昨年5月26日、(株)トランスワードに渡した「設置同意書」は、獅山市長が撤回を通告したことにより無効になりました。

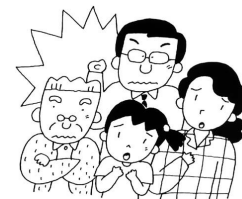
競艇の場外舟券売場を設置する場合は、「市長の同意書」を提出しなければなりません。

従って、獅山市長が前市長の同意書を撤回した事により

(株)トランスワードは、競艇の場外舟券売場設置を申請することが出来なくなりました。

しかし、(株)トランスワードや建設用地を所有する地権者団体、びわこ競艇を主催する滋賀県、建築工事をする大手ゼネコンなどが、何らかの巻き返しを図ってくることも考えられますので、予断は許せません。

市長の反対を押し切り



競輪の場外車券売場設置を申請か？

競輪の場外車券売場を設置する場合は、市長の同意書が無くても申請できます。

競輪の監督官庁は経済産業省で、地元の市長、市議会、自治会の反対を押し切って設置を許可したことがあり

ますので、獅山市長が反対しても強行してくるでしょう。

場外車券売場の設置を阻止するためには、競輪を主催している大津市などの地方自治体に、彦根進出を断念してもらえないというのが実情です。(裏面へ続く)

場外舟券・車券売場建設反対ニュース

NO.5

2005.5.29

場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会 彦根市原町 850-27 村井幸子 TEL 0749-24-2432

場外舟券・車券売場建設に反対する会 彦根市平田町 659-7 徳永 博 TEL 0749-23-2931

場外車券売場の構図



競輪主催の地方自治体が『出店』

前市長の市議会答弁によると、彦根市原町に場外舟券・車券売場を設置しようとしているのは、神戸に本社がある(株)トランスワードという民間会社で、原町の地権者でつくる「原開発委員会」から借地をして建設する計画です。

場外舟券・車券売場は、競艇場や競輪場が出店する「券売場」に過ぎず、経営主体は競艇や競輪を主催する地方自治体です。

競艇や競輪を主催する地方自治体が、(株)トランスワードなどの民間業者に舟券や車券の販売業務を委託し、販売手数料を支払います。

彦根市の場外車券売場の場合は、大津びわこ競輪を主催する大津市が車券の販売業務を(株)トランスワードに委託するという構図になります。

この際、大津市は大津びわこ競輪の券だけでなく全国の競輪場の車券販売を(株)トランスワードに委託します。

従って、(株)トランスワードが獅山市長と彦根市民の反対を押し切って車券売場の設置許可を申請し、経済産業省が許可しようとしても、大津市が「彦根に出店しない」と言えば、とりあえずストップされることになります。勿論、全国の競輪場に対して「彦根に進出しないよう」要請していくことも必要です。

競輪・競艇もパチンコと同じでは？

「パチンコには反対せずに、競艇・競輪ばかり何故、目の敵にするのか？」という声をよく聞きます。

場外舟券・車券売場はパチンコ店に比べると規模が大きいので、地域社会に及ぼす影響が大きいのが特徴です。前市長の市議会答弁と(株)トランスワードの発表資料では、5ヘクタールの土地に舟券・車券売場それぞれ2階建て延べ面積1,800㎡という巨大な施設だそうです。また、利用者数と稼働日数については舟券売場が1日当たり1,000人強で年間360日、車券売場は1日当たり300人で年間240日を想定しているそうです。

舟券・車券売場だけで年間利用者数が43万2,000人

ですから、温泉プール、フィットネス施設、レストラン、入浴施設、福祉施設などの利用者数を加えると一体どれほどになるのか想像も出来ません。

前市長も(株)トランスワードも、複合施設全体の入場者数を発表していないようですが、彦根城の年間入場者数約46万人をはるかに上回るとんでもない人数になる事は確かでしょう。

今でも彦根インター付近は恒常的な交通渋滞が続いている地域です。さらに数十万人が押し寄せると周辺地域は交通マヒ状態に陥ること必至です。

交通問題ひとつ見てもパチンコ店とは大違いです。

競輪の街・立川市で聞いてみました

東京都立川市の立川競輪場周辺で世論調査を実施した結果があります。(調査2000年6月)

一般所帯の124人に「公営ギャンブル施設が近くにあることで、地域の風格が上がったと思いますか？」と聞いたところ、「そう思う」3%、「そう思わない」82%、「どちらともいえない」15%という結果が出ました。

次に、競輪場があって良くない点をたずねました。「酔っぱらいが、靴や自転車を盗んだりしたあげく、店に入って『お金、タクシー代を貸してくれ』と粘る。子供や女性にもチョッカイを出して、危ないところを何度も目撃するので、興行のある日は女性も子供も外に出

せないほどだ。競輪場に訴えても全く取り合ってくれない。」「ガラが悪い。鉛筆、新聞を捨てる。家の中に新聞を投げ込んで行く。垣根に飲みかけの酒を置いて行く。」「泥棒が多い。交通が混雑する。」「ゴミやタバコの吸殻を捨てたり、酔って路上で用を足す人がいる。」「車のドアを壊されたり、中の物を盗まれたり、パンクさせられたりしたことがある。家の前で酔っ払いが寝ていたことがある。」「開催時は多少お客さんが増えるが、トイレを利用するだけで売上げ増加につながらない。」等等。

これらの声はほんの一部ですが、競輪ファンの実態がよくわかります。これが彦根で再現されると大変です。